

論壇

惠泉女学園
大学学長

木村 利人



第5次元の存在も？

光の速度よりも早い素粒子の発見が世界を駆け巡ったのは9月23日のことだった。日本を含む世界各国の専門家がなる国際研究チームは、スイスとフランスの国境に位置するCERN(欧州合同原子核研究機構)の加速器から発射されたミュー型ニュートリノがイタリアのグランサッソ

国立研究所にある検出器に、光の速度より一億分の6秒早く到達したと発表した。これが仮に正しいとすれば、アインシュタインの原理で展開されてきた現代物理学をはじめ、関連するさまざまな学問とその応用分野への根源的な挑戦となる。しかしこの測定成果に疑問を唱え、果たして正確であるのかどうかについてはなお、しばらくの時を

待たねばならないと、何人かの専門家はコメントしている。このニュースをふまえたSFの発想によれば、タイムマシンによる未来や過去への旅行や人間に感知されない第5次元の存在も解明される可能性がある。たとえば、イエスの時代のガリラヤ湖畔の散策が可能になったり、人智をこえた聖霊が異次元の中でも働いているという

ことが理論的には明らかになる時代が来るかもしれないという。今回の実験が行われたCERNは、世界協会協議会(WCC)の本部から車で約10分の距離にある。

講義を受けた。第二次大戦後に創設されたWCCは、科学技術を基盤とした現代社会における信仰、倫理と責任に関するプロジェクトに取り組み、ボセイでもこの方向に沿って大学院のカ

ックス国際会議「遺伝学と法」に参加した時のことを思い出す。世界で最初のバイオエシックス研究機関「ヘイスティンクス・センター」のダニエル・カラハン所長はカトリックの信仰者としての立場

確かに伝える倫理的・社会的責任がある。市民には知る権利があるのだ」と述べた。このボストン会議では、原子爆弾も原子力発電も、もともとをたせば、全てアインシュタインに行きつくという指摘があった。アインシュタインは、ナチス・ドイツが原爆を製造することへの恐怖から「新しい型の爆弾の威力が絶大であることは想像にたかくない」として、当時のルーズベルト米大統領に対し原子爆弾製造への勧告をした。後にアインシュタインは、この書簡は「生涯で最も悲しむべき思い出だった」と述べている。

遺伝学者をはじめ、聖職者、弁護士、医師、生物学者、行政官、国会議員、哲学者として多くの市民が参加したボストン会議。特に先端科学技術の社会的適用の積極面、さらに悲惨な結果をもたらさないための国際レベルでの「倫理委員会」の設置が提案された。キリスト者としてわたしたちは、かつてアインシュタインが挑戦的に語った次の言葉に学びたい。「宗教を欠いた科学、科学を欠いた宗教、どちらも不備なものだ。両者は互いに依存しており、真理の追究という共通の目標を持っている」(1954年)

アインシュタインの挑戦

WCC・ボセイ・エキユメニカル研究所に在職中、わたしはジュネーブ大学院エキユメニカル研究科の学生たちを引率して、毎年CERNを訪れ、超大型加速器の参観や素粒子研究についての特別

リキユラムが組まれていた。宗教と科学は互いに依存 福島の原発事故が収束していない現在、わたしは1997年のボストン・パイオエシ

から「科学者の倫理と責任」についての講演を行なった。「研究の第一線にいる科学者にはイマジネーションが必要である。特に、その否定的、破壊的な効果と影響を、市民に公開し、分かりやすく、正

確に伝える倫理的・社会的責任がある。市民には知る権利があるのだ」と述べた。このボストン会議では、原子爆弾も原子力発電も、もともとをたせば、全てアインシュタインに行きつくという指摘があった。アインシュタインは、ナチス・ドイツが原爆を製造することへの恐怖から「新しい型の爆弾の威力が絶大であることは想像にたかくない」として、当時のルーズベルト米大統領に対し原子爆弾製造への勧告をした。後にアインシュタインは、この書簡は「生涯で最も悲しむべき思い出だった」と述べている。

遺伝学者をはじめ、聖職者、弁護士、医師、生物学者、行政官、国会議員、哲学者として多くの市民が参加したボストン会議。特に先端科学技術の社会的適用の積極面、さらに悲惨な結果をもたらさないための国際レベルでの「倫理委員会」の設置が提案された。キリスト者としてわたしたちは、かつてアインシュタインが挑戦的に語った次の言葉に学びたい。「宗教を欠いた科学、科学を欠いた宗教、どちらも不備なものだ。両者は互いに依存しており、真理の追究という共通の目標を持っている」(1954年)